

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成 30 年度第 2 回 3 市ごみ減量推進市民会議		
事 務 局 (担 当 課)	日野市ごみゼロ推進課、国分寺市ごみ減量推進課、小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	平成 31 年 1 月 29 日 (火) 午前 10 時 00 分～		
開 催 場 所	日野市東部会館 2 階 会議室		
出 席 者	委 員	<出席者：16 名> (学識) 宮脇委員長 (日野市委員) 伊地知委員・伊藤委員・小野寺委員・佐藤 (美) 委員 (国分寺市委員) 石垣委員・佐藤 (幸) 委員・宮寺委員・八ツ藤委員 (小金井市委員) 石田委員・林委員・山田委員・波多野委員 (行政) 小澤委員長代理 (日)・波岡委員 (国)・小野委員 (小) 井上委員 (浅) <欠席者：なし>	
	事 務 局	日野市：佐々木課長補佐 国分寺市：野口係長 小金井市：大久保係長・高田係長	
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	3 人
会 議 次 第	1. 開 会 2. あいさつ 3. 協議事項 (1) 3 市ごみ減量推進市民会議でやりたいこと・期待すること (2) 今後の会議の進め方について 4. その他 5. 閉 会		
会 議 結 果	別紙審議経過のとおり		
提 出 資 料	別添のとおり		
そ の 他			

<p>伊地知委員</p>	<p>1. (1) 3市ごみ減量推進市民会議でやりたいこと・期待すること</p> <p>三多摩地域の中ではトップクラスの減量をなし遂げている市なので、ごみをどうすれば減量できるのか、その計画があったら聞きたいと思います。3市の持ち込んでくる可燃ごみも、組成が微妙に違うと思います、その辺を共有したい。日野市は剪定枝などを堆肥化しています、各市のアイデアが聞きたい。</p>
<p>伊藤委員</p>	<p>ダンボールコンポストを使って、ごみの減量をしています。干物ネットでごみを乾燥させています。自然乾燥の生ごみと混ぜて、たい肥を作っています。日野市全体はプラスチックの分別が始まっていません。トレイ類ペットボトルは「お返し大作戦」という日野のネーミングがあります。公民館などに持って行って回収もしています。それでも、せんべいの袋とかは出ます。お弁当を買って、トレイを洗わなければいけない。ただ、その水道代はとても気になる、水道代は、他の光熱費に比べれば多少は安いのだとは思いますが、トレイを洗って出すというのもすごく気になります。でも、やっぱり洗って出しています。ただ、水ですすいただけでは汚れが落ちないので、スポンジに洗剤を少しつけて洗っています。時間も手間もかかります。これ以上何をどうやって減量したらいいのか、毎日悩んでいます。</p>
<p>小野寺委員</p>	<p>各市ごみの減量施策をやっていて、全国的にもこの3市はごみ減量の上位です。それぞれのごみ減量を進めればいいのではないかとも思います。この施設の建てかえのときは日野市以外でつくると、申し合わせをしています。ですけれども、3市で日野市に建てた経緯を見ると、実情はほかの場所では不可能、30年後はもう建てかえはできないということです。3市でごみ減量についていろいろ工夫をしよう、そういった背景があります。この会議ではごみ減量の取り組みは、異次元のことをやらなくてはなりません。これ以上どういうことができるのかというような発言があります。本当にこれ以上どうやって減らすのかと思い悩んでいます。それ以上のごみ減量の努力をしなければならぬということ。3市で共同でやる、これからの運営に当たっても、費用はそれぞれの市が持ち込むごみ量に比例して負担することになっているわけです。いい意味でのごみ減量の競争というのが、生まれてくる。各市、市民の方々に、ごみ量に比例して焼却場の費用負担までしなければならぬのだから、できるだけごみ減量に協力してほしい。それを私は強調したらいいと思います。どうやってごみを減らしたらいいのか、ごみ量を限りなくゼロに近づけるためにどうしたらいいのか。ごみの中で一番大きいのは生ごみです。生ごみの分別収集と資源化は、もう避けて通れない話です。なんとかごみゼロ実現に向けて努力をしていきたい。</p>
<p>佐藤（美）委員</p>	<p>日野市ごみゼロ推進課と一緒に生ごみの回収実験を始めて、15年になります。コミュニティガーデンという形で、畑で生ごみが立派な土になっていい野菜ができるというのを見える化しました。見える化すると、地域の保育園・児童館、自治会の方・小学生・大学生が頻繁に一緒に農体験したいと言ってくるようになりました。大学生が来るので、みんなの出しているごみはどこで処理されているか知っている？ と質問すると、日の出町で処分されていると答えられる学生は1人いるかい</p>

ないかです。本当に今、ごみ問題って一部のマニアックなという失礼ですが、一部の知っている人だけがやっているという感じで、若い人たちはどこまで真剣にやっているかという、あまり構えていないと感じます。やっぱり小学生の子どもたちにクリーンセンターに見学に来てもらい、ピットを見て、日野市でもいろいろやっていて、教育効果というのは結構あると思います。それが、大きくなるにつれて意識が薄れていきます。20代から50代の世代の人たちが、一番ごみ問題とかそういうところに、かかわってほしい人たちになかなか届いていかない。どうしたらいいか、クリーンセンターが新しくなるときに、見える化できないかと思っています。武蔵野クリーンセンターでは、ごみピットバーといって、クレーンが混ぜるところを見ながら、おしゃれな雰囲気の中で、お酒を飲みながらごみについて語り合うイベントとかやっています。そこに出るカクテルとか料理は、全て捨てられるはずの野菜を使い調理したものを出して、ごみについて語る。そういうおもしろいイベントをやったのです。それに参加したら20代から50代の人が多かったです。おしゃれでおもしろい企画だと思いました。今までくさい、汚い、危険、そういう3Kといわれていたクリーンセンターを、きれいでみんなが立ち寄ってエネルギーの供給源にもなるというエコ施設をアピールしながら、自然の循環とかを学ぶ施設にしたいと思っています。クリーンセンターの見える化ということで、3市が集まっているので、新しくなった、そういうおもしろいエコツアーをどんどん企画してやっていきたい。

波多野委員

ごみ処理機なんかも置けないようなところへの啓発が、一番私は気になっています。関心のある方、市民の方ももちろんいっぱいいますし、そういう方はちゃんとやってくださっています。やってくださっている方は、これ以上どうしたらいいのと感じています。それ以外のところを啓発していくしかない。本当に学生の方なんかの世帯のごみがすごく気になっています。私もそうですが、土日にイベントやっても全然行かれないですし、駅で何か配っていてそれを見ても、それを手に取る余裕もなく電車に乗ってしまうという方も多いです。市役所にイベントの掲示とかありますが、市役所に年に何回そういう人たちが行くのだろうかという、ほとんど行かないと思います。学生さんなんか特にそうですが、市役所に説明を聞きに行く方はいると思いますが、それよりも不動産屋さんと言われると守ると思います。そういうところをもっとできたほうがいいと思います。私も料理をしますが、プラスチックのごみがどんどんたまってしまふことが多いです。それをどうしたらいいのかとすごく悩んでいます。プラスチックのごみというのはなかなか減らないと感じています。

山田委員

3年前から防災備蓄食品を自治体や企業から回収して、賞味期限前のものは福祉施設に配ったり、そういうことをやっています。今は学校の防災備蓄食品の賞味期限前のもの、学校給食に使って、そこで食育をやっています。小平市の全小学校、21の公立小学校がありますけれども、学校給食で使って我々で食育活動をしています。そこで賞味期限の話とか、食品ロスの話をして、アンケートをとっています。そうすると、家に帰って親御さんと話をして、こういう話があったと。単に子どもに対しての食育だけではなく、家庭に持ち帰って食品ロスの取り組みの動き

というのものもあるのだなと実感しています。この地域でもっと活発にできればと思っています。小平市以外では、小金井市の東小学校、学芸附属中学校では毎月やっています。福祉施設では相当量使っていますが、もっとたくさん使うには、専門家のレシピが欲しいと言われ、学校給食の栄養教諭の先生たちにメニューを開発していただき、食育、学校給食で使うところに広がっていきました。いろいろな意味で、子どもたちを巻き込んだ活動ができていくと思っています。

林 委員

基本的には資源ごみを含めた廃棄物全体の減量と可燃ごみの減量、両方のごみ減量施策を検討する必要があると考えています。できるだけ共通の施策を採用することを念頭に置いて、各市のベストプラクティスを学んで新たな減量施策を導入したい。いろいろやり尽くしているという話もありましたが、市によって多少まだ違いがあると思います。その中でできるだけ新しいものがあれば見つけたいと思います。また、可燃ごみの焼却ゼロというのを目標に据え、ロードマップができないか。30年と言わず、10年、20年、30年、期限を切ったロードマップができないか。特に生ごみの取り扱いについては、焼却以外の処理方法を検討できないかなと考えています。可燃ごみの半分は生ごみという話もあるので、焼却以外の方法も検討したいです。更に、最新のごみ処理技術を勉強し、その中から、我々のところで生かせるものを探したいです。

石田委員

少し観点を変えて提案します。我々は負担をかけるばかりですし、なかなか連携は難しいということで、なにか連携できないかなということを考えています。30年先までのことを考えなければいけないわけで、大切なのはこれからの担い手となるのは小学生であるとか中学生、あるいは高校生たち。その辺をターゲットに取り組むことを何か考えられないかと思います。例えば、夏休みの自由研究で、懸賞をつけて、いいかどうかは問題があるのかもしれませんが、そういう形で募集して発表会をやる。子どもの活動は、大人が肯定的に受け取ってくれるのではないかと考えてやったらどうか。3市全体で1位、2位を決めるとするのは、先々いいのかもしれないですが、当面は各市で一番いいと思うものを出し、3市で一緒にやって、ほかと比べることで、こういう取り組みがあるのだなということを知っていただく機会にする。これを3市持ち回りで3年ぐらいやってみる。こういう場で情報交換ができればと思います。

八ツ藤委員

平成29年度の多摩地域の1人1日当たりの総ごみ量は、多摩地区30市町村ありますが、この3市は少ない方からベスト5に入っています。ということは、これまで3市ともごみの減量・資源化に積極的に取り組んだ成果であり、各市のごみ減量・資源化施策には他の市の参考になるものがたくさんあると思っています。この市民会議では積極的に情報交換をして、良い点はできるだけそれぞれの市の施策に反映させていく。それから、3市共通の課題があると思うので、その課題について、この会議で積極的に意見交換をしたいと思っています。情報交換、意見交換の課題としては、まず、可燃ごみの分別ルールの3市比較とルールの共通化の可否の検討です。3市で共同処理施設をつくるのですから、可燃ごみの分別ルールも一緒にしたらどうかとの意見があります。各市のどこが違うかを確認し、共通化できるかどうかを検討する。検討する場合は、

可燃ごみの減量に資するという視点が必ず必要だと思えます。次に、全国的な課題になっている食品ロスの削減の問題。可燃ごみの半分近くを占める生ごみの減量対策についての意見交換をする。各市に関係あるので、食品ロス、生ごみ処理、これを一緒に検討し、情報交換したらいいと思えます。3番目は、マイクロプラスチックによる海洋汚染が、世界的にも大きな問題になっています。日本政府も、事業者も、対策を検討していますが、自治体や、我々市民に何ができるかということを経験交換、あるいは意見交換をしたらどうか。4番目は、市民会議の委員には廃棄物減量等推進委員(市によって名称は違うと思えますが)の方がたくさんいらっしゃいますので、それぞれの委員の活動状況について、ぜひ情報交換をして、我々の啓発活動の参考になるものは取り入れていきたいと思っています。この会議は、年3回ありますが、一定の結論を出すことは難しいかなと思えます。この会議が形式的な会議にならないように、活発な情報交換、意見交換をして、3市の相互理解、ごみの減量に寄与する場になることを期待しています。

宮寺委員

環境の問題から、ごみについて市民に問題提起という形で、提起をしていく。循環型まちづくりというのは、どの市町村も主要テーマになっています。日野のほうにお世話になるわけですが、日野市民に負担をかけないためにはどうしたらいいか。環境は、切っても切れない問題ですので、先ほど小学校や中学校の教育場面を通して、小さいころから地球上の環境の上に生かされているということを経験し、体で覚えていくことが一番大事ではないかと思えます。ぜひそういう場面をつくってもらいた。地球環境に負荷を与えないためには、どんな日常生活、行動をしたらいいかということを経験し、子どもの頃から考えていくことが大事ではないかと思えます。3市が、さらなる減量を図るためにはどうしたらいいか、また新たな問題が起こっています。やはり高齢化が進行していることによって、介護用品が混じって排出されている。生ごみは絞ったり乾燥させたり、買うのを控えたり、冷蔵庫の中を点検したりとか、工夫していると思えます。介護用おむつがかなり出ているように感じています。可燃ごみの中でこういった生理的なごみをどのように処置するのかということが、新たな問題として環境の上でどうしたらいいのか考える必要があると思えます。市民が本気でごみ減量にかかわっていくためにはどうしたらいいかということですが、ただ一辺倒に広報で啓発したから事足りるではないと思えます。日野市に迷惑をかけないためにも、本当に気持ちを1つにして、ごみ減量にかかわっていききたいと思えます。

佐藤(幸)委員

日野市の皆様のご理解により、国分寺の家庭から出るごみがこちらのセンターでお世話になるということを経験しながら、この機会をいい減量の機会につなげていけたらと思っています。食品ロスを減らすこと、今すぐ気持ち1つですぐ取り組めるのが食ロスの削減だと思えます。食品ロスを3市で協働して深く取り組んでいきたい。統計的に、食品ロスの半分が家庭から出ているということは、まだまだ頑張れば、このごみは減らせる可能性も多いのではないかと思えます。可燃ごみ、生ごみ、家庭から出るものはみんな共通ですので、この辺を強力に取り組むことによって、ごみの減量も進むのではないかと思えます。伝えたではなくて、伝わったという形になるように、他の家の状況も教えてもらいたい。

石垣委員

分別がすごく大事だと思っています。まず分別がきちんとできていない。分別意識がやはりそこまで高まっていないと思います。ごみを減らす以前の問題で、分別してそこから減らすという話になるはずです。日野、小金井、国分寺というのは、多摩地域全体で見るとごみの量が少ない方ですけども、それはやはり減らそう、減らそうという努力をしている方が比較的多い。国分寺はペットボトルの個別収集はしていません。一部の場所でのみ拠点収集しています。拠点に近くない方は、どこに出すかという、スーパーやコンビニなど集めている店舗に持っていくしかない。もしくは燃えないごみで捨てるしかない。そうすると、みんな飲み物が欲しいなと思っても出すときどうしようと考えて買うようです。私の知っている方も、ほかのところにはいたときはペットボトルを気軽に買っていたけど、国分寺に引っ越して来てからは気軽に出せないから、自分でお茶を淹れて持ち歩くようになった。すごく面倒くさいと言われます。なので、ペットボトルを集めるようにしてほしいと言われるけど、集めなくても済んでいるなら集めなくていいとも思うと伝えています。若い人でも、個別で集めないからどうやって出そう、出さないようにしようと考えます。生ごみを一絞りしよう、これは確かに誰でもできることなのですけれども、ほかに、じゃあこれをやろう、スローガンを考えよう、みんなが何となくパッと、ああこれ聞いたことがある、じゃあやってみようと思いを高める、そういうものを皆さんで考えていけたらなと思っています。小中学校の啓発も、どこの市でもやっているとは思いますが、こうやってごみの分別をするのだよとセンターにも見に行っても、1回や2回ではやはり定着しない。興味のない子には定着しないから、継続して、4年生だけじゃなく、5年生、6年生、中学生にも啓発していけたらと思います。大変だとは思いますがよろしくお願いします。

委員長

ありがとうございます。今、出たキーワードをおさらいします。例えば、減量は大事だ、もちろん共通のところはごみを分けること、1つは環境教育系の話し。最初から最後まで統一して出ていたところは、やはり小さいころから環境全般のことについて学ぶということで、小学校4年生のときにいきなり分別できるかという、できないというのが実態です。うまくいった事例をやるというのは共通でいいというのはみんなわかっている、できない方もいっちゃうというのは、どうやって興味を持ってもらうかです。やはり嫌なことは嫌なのですけれども、興味が出て何かやりたくなってきました。プラスチックの話も幾つか出ています。洗う話もなかなか結論の難しい話で本当に洗っていいのかとか、どこまで洗わなければいけないのかという話もあります。重量的な話で、生ごみの話ですね。食べられるのにという食品ロスの話はやっぱり大きな課題だと共通した認識かと思えます。それから、ちょっと食べられなくなった生ごみを、じゃあどうしていくのか。ここにいるメンバーはクリーンセンターも知っているし、ごみ処理というのはこんなことをやっているのだな、排ガス処理はこんなことをやっている、一般の方はなかなか見られないのでというのがポイント

伊藤委員	<p>です。話がそれるんですが、工業地帯に行って、煙突からもくもくと煙が出ているのを喜んで見る。いいアイデアだと思います。</p> <p>聞いてみたいではないですが、30年後、私も多分生きていないと思います。でも、ここの地域で古くから生まれ育った方もいます。そういう方々の思いを代弁して、30年後は石田一丁目、ここからはないということを前提にお願いします。小金井に行くのか国分寺に行くのかわかりません。でも、日野市でもし建てかえらるとなるのであれば、30年後はせめて石田一丁目、あそこの場所からはないという話を覚えておいていただけたらなと思います。</p>
委員長	<p>ちょっと回答しにくい質問かと思います。</p>
伊藤委員	<p>回答は要りません。こういう発言があったということをみんなが覚えておいていただければ。私ももうこの世にいないと思いますので。ただ、いなくなるまでずっと言い続けたいとは思っています。</p>
林委員	<p>今の発言に関連しますが、限りなくごみゼロを目指すというお話があったと思います。限りなくごみゼロを目指すというのは、共通認識として持って良いのでしょうか。というのは、もう大分前になると思いますが、日野市の広報を読ませていただいたときに、ごみゼロというのがうたわれていまして、この会議の立ち位置としても、ごみゼロというのを目指してできるだけ減らすことを考えるということが良いのかどうか。</p>
伊藤委員	<p>限りなくごみゼロ、例えば、普通の生活状態ではかなりいいところまで行くと思うのです。ただ、震災があった場合、災害があった場合、かなりのごみを焼却しないと、衛生上よくないですね。3.11のときにも説明がありましたということで、焼却場がなくなるということは、無理なのではないかなと私は思います。だから、普通の生活では限りなくゼロに近づけようというので、いいのではないかと思います。</p>
林委員	<p>それで結構だと思うのですが、例えば、生ごみを可燃で処理するか、できるだけ可燃物に入れないかということで、ごみの量というのはかなり変わってくると思います。そうすると、やはり目指すところは、できるだけ燃やさないということです。例えば、紙おむつを燃やしていますが、これから量がどんどんふえたときに、これを燃やすのをできるだけ避ける方向で考えるかどうかで、そこにかかわってくるのかなという気がします。</p>
小沢課長	<p>議論は市民委員の方で活発にさせていただいていいのですが、日野市で言っているごみゼロというのは、埋め立てゼロ、焼却ゼロということを目指す、ということのごみゼロプランになっています。資源物もごみですので、ごみを全てゼロというのは、なかなか現実の中では難しい。日野市では埋め立てゼロ、焼却ゼロを目指しています。</p>
林委員	<p>焼却ゼロというのを目指す、そういう共通認識でいいですかということです。</p>

小野寺委員	埋め立ては、多摩地域は事実上、ゼロです。
小野寺委員	災害廃棄物が出る限りは焼却場をなくすのは無理ではないかとありました。実際は、被災地では、かなりリサイクルしています。木材とか、がれきとか。3カ所に焼却場を期限つきで建て、それが終わったら撤去しました。
委員長	ほかにいかがでしょうか。焼却量削減は全員同一の意見です。そのほかにいかがですか。
伊地知委員	生ごみの減量をやっているけれども、イモの皮などを1センチ角に切ってEM菌をまぜてなど、それを広げるということは到底困難です。個人で処理するではなくて、異次元的な処理方法をもっと勉強したい。例えばバイオマスなど、行政もお金を使わずに近所に迷惑をかけない減量のしかた。
小野寺委員	ごみ減量というのは、やはり手間をかけなくてはできないです。一手間かければ、ごみは減りますよという呼びかけ。一手間でごみを減らしましょうと、呼びかけをやったほうが良いと思います。
佐藤（美）委員	面倒なことをして、手間暇かけてやったほうが環境にいいと言っても、一方ではもうどんどん回収する。安易な方向に流れるのが人の常だと思います。そこら辺もふまえて考えないといけない。さっきペットボトルは回収しないとありましたけれども、ペットボトルもデポジット制とかありますね。ああいうふうになれば、持ってくる人もふえることがありますね。そういう工夫ってもっとできると思います。1市で難しくても、3市協働でやれば協力してできると思います。そういうことをもっと考えてみたいなと思います。ごみの授業で、クリーンセンターに4年生は必ず行くのですけれど、小金井市は焼却場がないので、ごみの勉強では見学はどこかの市に行くとか、そういったことはやってないのですか。
林委員	リサイクル施設には行っています。
佐藤（美）委員	焼却のほうは、行かれていないわけですね。日野はちょっと遠いのですけれども小金井、国分寺の小学生が見学できるようなエコツアーを小学校とごみゼロ推進課の方と組んでできるように、私たちも応援する仕組みをつくることができると思います。
佐藤（美）委員	隣に下水処理場もあり、その橋を渡ればせせらぎ農園があって、生ごみで野菜が立派に育つのも見えるので、そこら辺もエコツアーで行けば、半日使っているいろいろなできると思います。社会科見学で、3つおいしいエコツアーができますみたいなのを企画できたらいいと思います。生ごみは、塩分があるから野菜がおいしく育たないとか、何か難しい、生ごみで育てるのはにおいもあるでしょうって言われるのですが、実際に育てているのを見たら、イメージが変わると思います。
林委員	今のようなことが、対応できる施設が計画されているのですか。

<p>事務局</p> <p>林委員</p> <p>事務局</p> <p>宮寺委員</p> <p>石垣委員</p> <p>佐藤（幸）委員</p> <p>委員長</p>	<p>見学通路は設計に入っています。</p> <p>リサイクルセンターは、まだ先だと聞いているので、そういうエコツアーをしたときに対応できるような、そういうセンターに民間の知恵も入れてつくっていただけるようにぜひ考えてほしいなと思います。</p> <p>今のそういうお話は、3市の小学生に限らず、市民の方も積極的に来ていただいて、自分たちのごみが日野市の可燃処理施設まで運ばれてきて燃やされているのを見ていただいて、わかっていただき、それぞれのごみ減量につながればと思います。隣に下水処理場もあり、ほかにも動物愛護センターなどあります。そういうこの地域のことも含めて学んでいただくといいと思います。</p> <p>子どもたち、4年生ですけれども、遠足ではない施設見学です。環境教育の一環として、ごみは遠いところまで持って行かなければならないという現実を目の当たりに見る。かなりいい勉強の機会になると思います。どんどん足を運んでもらえるような工夫をお願いしたいと思います。食品ロスが家庭ではかなりあるわけですが、賞味期限や消費期限の問題もあります。つくったものを食べないで残す、コンビニやスーパーで買った惣菜を残して廃棄するというケースも多いと思います。宴会などで残った食事を全部廃棄のほうへ行ってしまう。皆さんも経験していると思いますので、3市の料理飲食組合に対して、食品ロスを防ぐためにはどうしたらいいかという提案をして、その企業自身が考える場面をつくり出したほうがいいのかと思います。</p> <p>飲食店での食事に関して、私も子どもがいるので、やはり食べ残しは絶対にしないようにしています。家にいるときも、外食をするときも、本当に口を酸っぱくして言っています。でもバイキングなどではいっぱい食べたくて、いろいろ取ってきてしまうのが普通ではないかと思うのです。最近、お店のほうで、食べ残したら罰金とか書いてあるところもあります。それを見るとハッとするのは、食べ残してはいけない、お金を取られてしまう。それってすごくわかりやすいと思うのです。食べ残しをしたら幾らいただきますとか。一言でもいいから、飲食店とかで張ってもらって、こういうルールですよというのをやっただけで変わるといいます。お客様に食べ残しをさせないような努力というのでしょうか、そういうのもあればいいと思います。</p> <p>3010 が、だんだん定着しています。女性や高齢者には、外食では量が多いときがある。事前に言えば、量を減らしてくれる店もある。残れば、生ごみとして処理されるので、言ったほうがいいと思います。</p> <p>それでは、次回までには事務局のほうで取りまとめた内容になるかと思いますが、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、今後の会議の進め方について事務局より提案です。</p>
--	--

事務局

2. 今後の会議の進め方について

平成31年3市ごみ減量推進市民会議の進め方についての案です。前回の会議終了後、今後の会議の進め方について委員の皆様からご意見をいただき事務局で検討しました。

1番として全体会議の開催は年3回を予定する。そのほかに2つの小委員会で検討を進めるという形を提案します。全体会は、4月ごろにテーマを決める場を設け、10月に小委員会の中間報告、お互いの小委員会の報告を受け意見交換をする。2月にまとめるという流れで、全体会を開催したいと考えています。その間に小委員会を開催すると考えています。全体会は、日野市の東部会館でできるだけ開催をしたいと考えています。

小委員会は、各市4名の委員を、2名の2グループに分け、それぞれ同じ人数でできないかと考えています。2つのグループのテーマは、所掌事項にあるさまざまな情報発信の検討をする小委員会と、市民及び行政が取り組む環境に配慮したごみ減量施策などの検討をする小委員会に分かれるという提案をします。

また、環境学習の話も多く出ていますので、情報発信のほうで一緒に検討できたらと提案します。

小委員会の開催で検討する内容は、きょうのは要点録を委員全員に返し見てもらいます。次回4月の全体会で、グループ分けをし、グループの中でなにをやるか検討していただいて、皆さんの中でテーマと細かな内容を決めていただいて、そのテーマに基づいた検討をしていただくという形で進められたらどうかという提案です。

小委員会は、5月から9月で中間報告ができるように何とか進めていただき、10月に中間報告し、違うグループの方々からもいろいろな意見が出るかもしれませんので、そういったものも参考にして、さらに11月から1月で掘り下げてご検討いただき、2月にまとめていくという流れでやれたらどうかと考えています。小委員会の日程につきましては、小委員会の皆さんで日程を調整したり、会場を決めたりということもしていただけたら進めやすいのではないかなと考えています。会場については、それぞれ3市どこでも開催ができるようにしたいと考えています。それぞれのグループで順番にやろうよとか、今回はこっちがいいよねとか、テーマに応じて臨機応変に開催ができるようにしていただければと考えています。会場の確保につきましては、事務局のほうで協力しますので、日にちと場所だけ検討いただき、会場についてはアクセスしやすいところをできるだけ確保したいと思います。

小委員会の開催は、大体1、2カ月に1回程度ということで、年間5回を予定させていただいています。進めていく中で状況が変わってくることもあるかもしれませんが、5回で提案をします。

行政の職員につきましては、基本は参加をせずに、市民の皆さんでできるだけお話をしていただけたらと思っています。ただ、皆様からいろいろ話を聞きたいから出てほしいということがありましたら、出席します。事務局は必ず参加をさせていただきながら、皆様のサポートをしていきたいと考えていますので、このような形でやってみて、やっていく中で何か問題点等がありましたら、改善をしながら、最終的にまとめていけるものができたらと考えておりますので、このような進め方で検討いただけたらと思っています。

会議の謝礼についてですが、全体会議1回3,000円の謝礼を、予算要

	<p>求をしています。小委員会のほうは、どこの市でやるかはこれから決めていきますが、平等に回ることを想定して、交通費程度の謝金が支払できるようにしたいと考えています。今回、小委員会は1人5回分の予算しか要求していませんので、もし2つ参加される場合は、片側については手弁当ではないですが、そういった形で参加していただくことをお願いできたらと思っています。ご意見があればお願いします。</p>
委員 長	<p>ご説明ありがとうございます。それでは、質問、ご意見、いかがですか。</p>
八ツ藤委員	<p>来年度、稼働はいつ頃と見たらよろしいでしょうか。この新しい施設の稼働時期ですが。</p>
事 務 局	<p>本格稼働は平成32年4月です。</p>
八ツ藤委員	<p>テーマを決めるときに、期限が決まっていなかったと言われましたが、稼働前にやるべきことがたくさんあると思います。稼働前にやるべきこと、長期的に検討すること、の仕訳をしたうえでテーマ選定をお願いします。小委員会に行政委員は、要請があれば出席するとなっていますが、委員はテーマごとに各市がどういうことを今やっているかという、共通認識を持つ必要があると思います。これは既にやっている、これはまだとか、市の状況を説明してもらって、メンバーが共通認識を持つ必要がありますので、行政委員には出席をお願いできればと思います。</p>
八ツ藤委員	<p>小委員会に行政委員は要請があれば出席するというのですが、議事録とかどうなりますか。</p>
事 務 局	<p>必ず出てサポートしていきます。</p>
八ツ藤委員	<p>発言はされないのですよね。</p>
事 務 局	<p>何か質問とかがあれば、それは適宜対応していきます。課長職も事務局として参加もしますので、全てを係長職員に任せているということではありません。</p>
委員 長	<p>進め方について何か意見ありますか。場合によってはメールで意見交換するというのもいいと思います。今日はこのあたりでよろしいですか。何か気がついた点がありましたら、事務局の担当に連絡してください。その他で、委員から市民検討委員会について紹介がありますので、お願いします。</p>
小野寺委員	<p>ごみ・環境ビジョン21という、多摩地域を地盤にしてごみ専門に活動している団体があるのですけれども、できてから20年たちます。毎年、2回、市民ごみ大学セミナーをやっています。2月17日日曜日の午後に、国分寺の労政会館でセミナーをやる予定になっています。講師は、東洋大学経済学部の教授の山谷修作先生、この方は多摩地域の各市の事情に詳しいです。その先生に多摩地域の話題を話していただいて、その後に日野市と小金井市の市民が懇談することになっています。</p>

<p>佐藤（美）委員</p>	<p>興味ある方はぜひご参加いただきたいと思います。</p> <p>「せせらぎ農園通信」の裏側に書いてあるのですが、委員長の宮脇健太郎先生をお呼びしまして、3月23日土曜日2時から4時まで、日野市生活保健センターの3階の講座室で、「ごみを減らさなければどうなるの」というテーマでお話をいただきます。ごみの減量、減量と言うけれども、多摩地域で言えば、埋め立て地はエコセメントもあって、少し延命したということもあります。何のためにごみの減量をしなければいけないのか、根本的なところをサッと私たち全員が答えられるようになるのが目標なのです。そういうことをみんなで勉強したいと思うので、宮脇先生にお話を聞きたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、本日の日程は全て終了しました。事務局に進行をお戻しします。よろしくお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>皆様、本日はご多忙の中、本当にありがとうございました。本日の委員の皆様からの意見等につきまして、要点録を作成し送らせていただきます。その際、お名前を確認させていただくと思いますので、私だと言っていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。次回の全体会は、4月23日の火曜日を予定したいと考えていますが、最終的な案内については1カ月前ぐらいにはできるようにしたいと思います。</p> <p>それでは、これもちまして平成30年度の第2回3市ごみ減量推進委員市民会議を終了します。本日はどうもありがとうございました。</p>